

# 2019年3月期 決算説明会

---

2019年5月22日

**TDCソフト株式会社**

代表取締役社長

**谷上 俊二**

# 本日のポイント

## 2019年3月期の実績

- ・堅調な事業環境の中、計画以上の増収増益を達成。
- ・次世代型SI事業を積極的に推進し、着実に拡大

## トピックス

- ・アジャイル開発技術を育成
- ・健康優良法人2019（ホワイト500）に認定
- ・子会社の経営統合を実施

# 目次

- 2019年3月期の決算概況
- 分野別の状況
- トピックス

# 決算概況(連結)

(単位：百万円)

2019年3月期

利益率

増減率

2018年3月期

売上高	26,590	-	+11.0%	23,946
売上総利益	5,076	19.1%	+5.6%	4,808
営業利益	2,157	8.1%	+16.5%	1,851
経常利益	2,248	8.5%	+17.9%	1,906
当期純利益	1,469	5.5%	+17.7%	1,249

## 【ハイライト】

- 各事業分野の成長戦略が計画どおりに推移し増収、増益
- 重点戦略となる次世代型 S I 事業は昨年度に開始した産学共同研究等の要素技術の研究フェーズから事業化促進フェーズへとステップアップを図る。

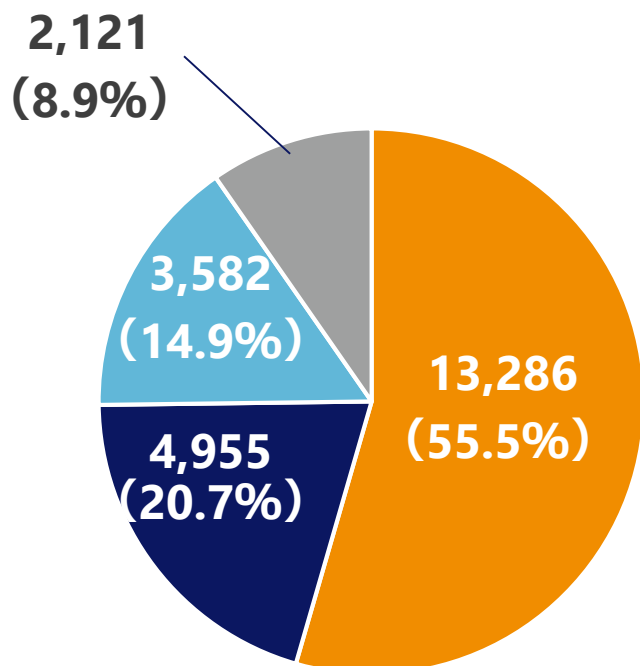
当該分野のビジネス拡大を目指し、技術者の確保・育成や、新規案件を複数に受注し順調に拡大。

※次世代型 S I 事業

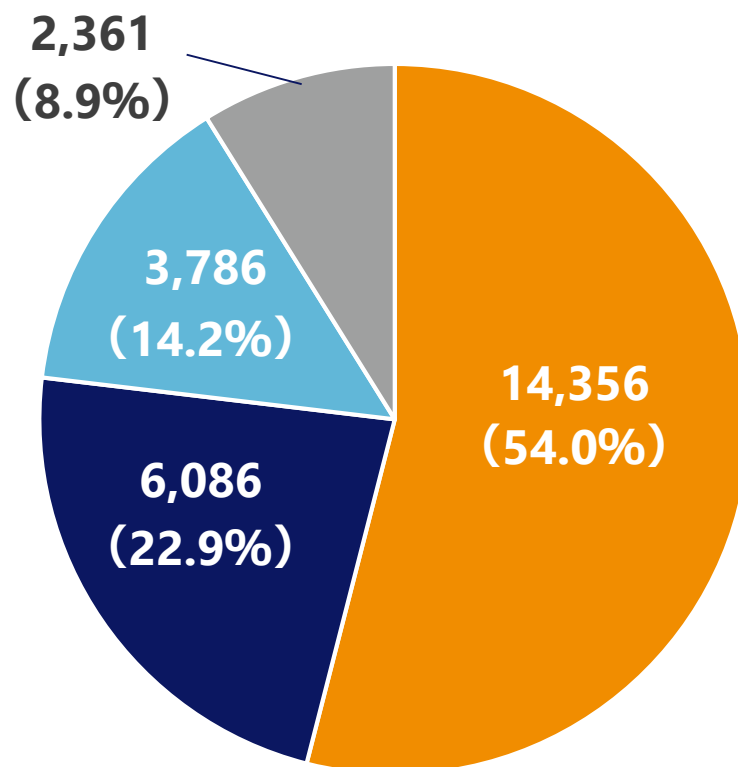
顧客の潜在ニーズを捉え、最新の要素技術等を活用した付加価値の高い S I 事業

# 分野別売上高概況

2018年3月期  
23,946百万円



2019年3月期  
26,590百万円



アプリケーション開発分野 (金融)

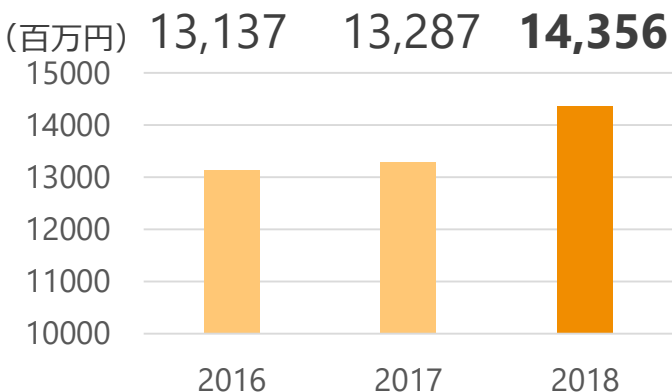
ソリューション分野 (インフラ・ネットワーク)

アプリケーション開発分野 (法人)

ソリューション分野 (パッケージ等)

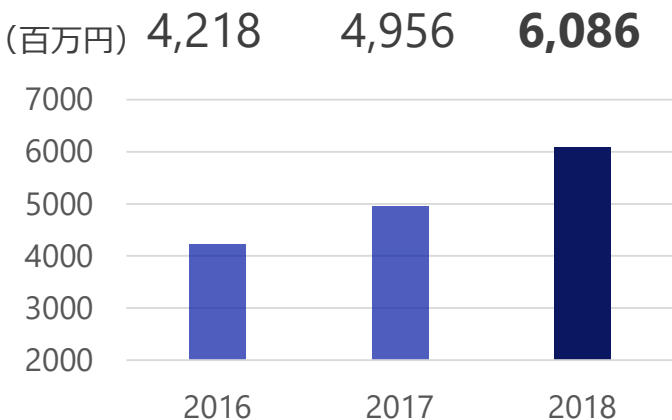
# 分野別ハイライト

## 金融アプリケーション開発分野



保険業向け大型システム開発案件が堅調に推移  
前年同期比8.1%増収

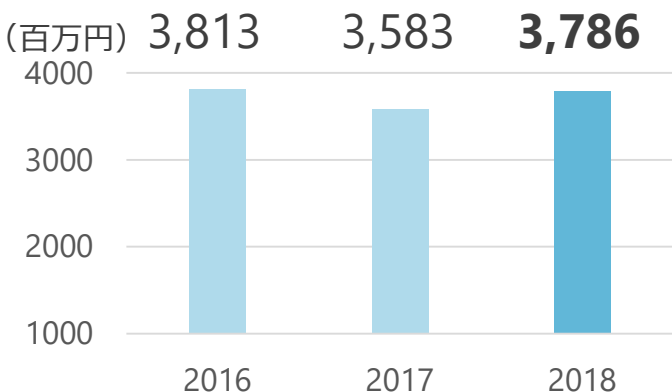
## 法人アプリケーション開発分野



公共・製造業向けの開発案件等が堅調に推移  
前年同期比22.8%増収

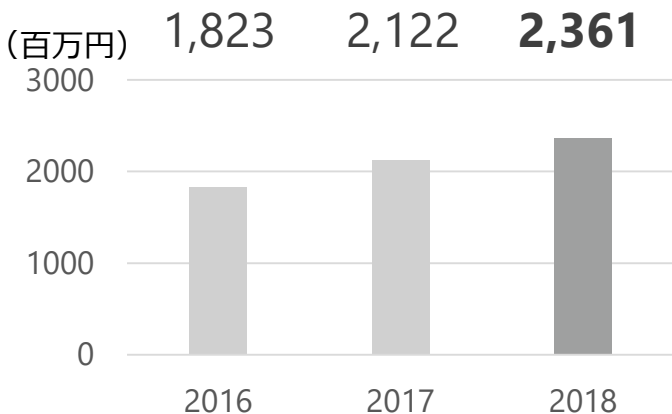
# 分野別ハイライト

## ソリューション分野（インフラ・ネットワーク）



官庁向けのITインフラ構築案件が堅調に推移する中、クラウドインフラ更改案件等の伸長  
前年同期比5.7%増収

## ソリューション分野（パッケージ等）



CRMや自社クラウドアプリケーション関連の案件が堅調に推移  
前年同期比11.3%増収

# トピックス

## ● アジャイル開発技術者の育成

次世代型SI事業の拡大に向けた取り組みの一環として、アジャイル開発技術者の育成に注力。

アジャイル開発関係の資格を約20名が取得するなど、技術者を約50名にまで拡大。

## ● 健康優良法人2019（ホワイト500）に認定

健康経営優良法人認定制度の大企業部門において、優良な健康経営を実践している法人として「健康経営優良法人2019（ホワイト500）」の一社として認定

## ● グループ再編を実施

経営資源を集約し効率的な組織運営や企業基盤の強化を図ることで、事業拡大のスピードアップを目指すことを目的に子会社の2社の経営統合を実施



# 中期経営計画 2019年度経営方針

専務取締役執行役員

小林 裕嘉

# 目次

- 中期経営ビジョン
- 主要戦略
- 中期業績目標
- 2019年度経営方針
- 2020年3月期業績予想

市場の潜在ニーズを捉え、デジタル技術や新たな潮流に対応した次世代型のシステムインテグレーション事業へと進化する。

## 次世代型システムインテグレーターを目指す

### 主要戦略

#### 高付加価値SIサービスの追求

顧客の潜在ニーズを捉え、最新の要素技術等を活用し、高付加価値サービスの提供と時間や手間などを含めたユーザコストの低減を両立したインテグレーションサービスの拡大

### 主要戦略

#### SIモデル変革の推進

高付加価値 S I サービスを実現するための基盤づくりや高生産性と高品質を両立した S I プロセスの整備などをイノベーション的アプローチで実現し、他社との差別化を図る

## ■ 高付加価値分野の事業推進

顧客のデジタルトランスフォーメーション推進に対して、最新の要素技術を活用して顧客の価値創造ニーズに応えるサービス事業を推進する

- 最新技術による顧客のデジタルトランスフォーメーションの支援
- ITサービスマネジメント、専門業務知識を含めたノウハウによる経営課題の解決の支援
- ビジネスアーキテクト、ITアーキテクトを活用した解決の支援

### <ビジネスアーキテクト>

顧客のビジネスを理解しビジネスの実プロセスに落とし込みIT化の構想等を立案できる人材

## ■ 広範囲でサービス品質の高いビジネス手法への変革

個別の特定プロジェクトでハイスキル人材を活用する現状から、複数の案件で活用するなど、より当社全体がサービス品質水準を高めるビジネス手法の確立を図る。

- ハイスキル人材を集約、広範囲のP Jで活用できる手法の構築
- 顧客とサービスレベルやインセンティブ等を合意するなど、当社独自の契約モデルの構築

## ■ 品質担保プロセスの効率化

プロジェクト管理、品質担保プロセス等の効率化を図るとともに、顧客のシステム開発に関わる負荷を軽減したS Iサービスの確立。

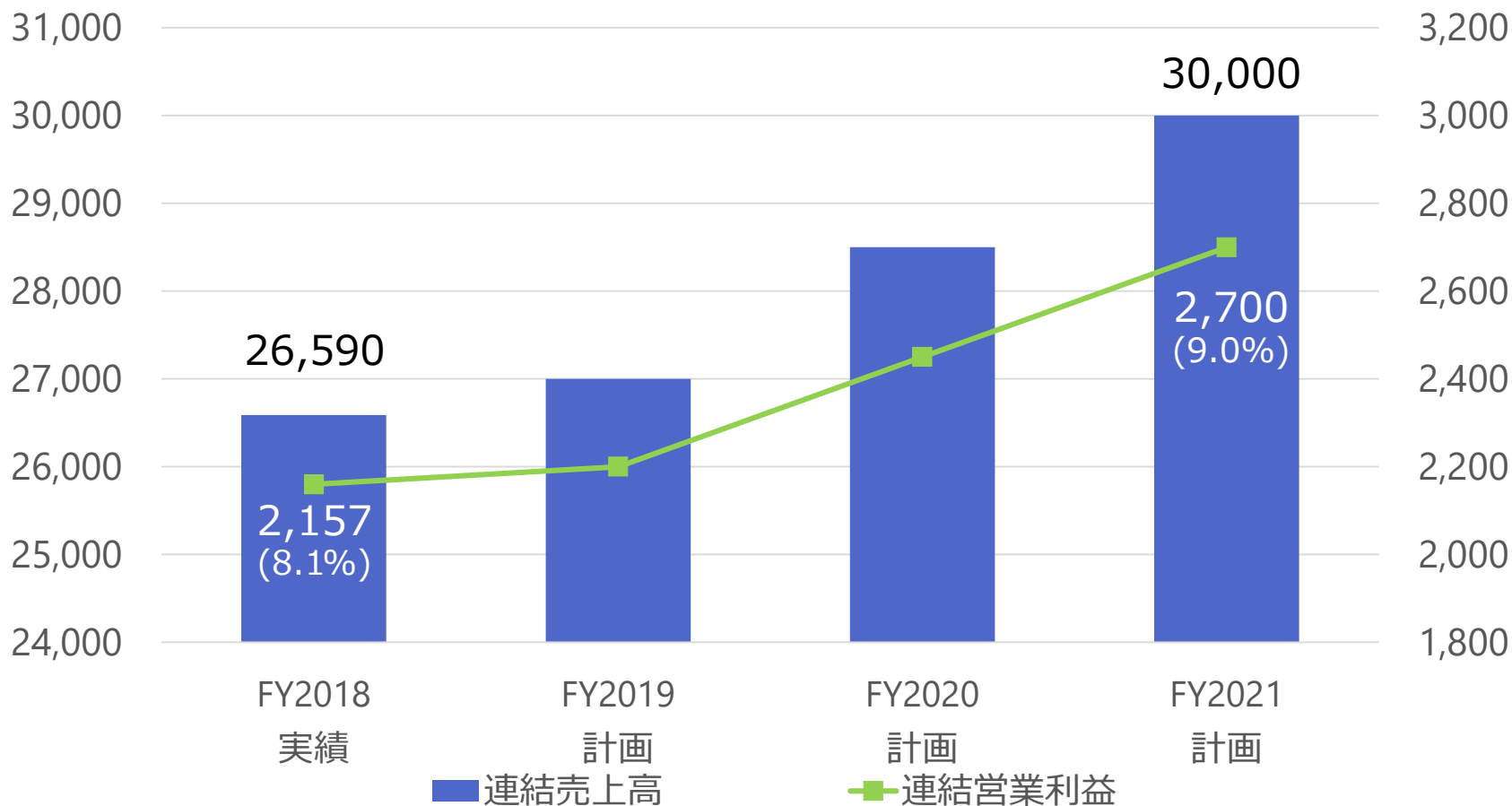
- 品質担保プロセス、付帯作業等のスリム化
- 次世代技術（自動化）等を活用したS Iモデルの効率化

# 中期業績目標

連結売上高300億円、営業利益27億円（営業利益率9.0%）  
次世代型 S I 事業の売上高構成比2割程度への拡大を目指す。

(連結売上高：百万円)

(連結営業利益：百万円)



中期経営計画ビジョン『次世代型システムインテグレーター』を目指し、構造改革を力強く推進することで、継続的に成長するための基盤作りに注力する。

- 事業部門に分散配置したハイスキル人材をデジタル技術等に対応する専門組織に集約化。  
顧客のデジタルビジネス推進を強力に支援する体制を構築する。
- デジタルビジネス推進やS Iモデル変革に向け積極的な投資を推進し、継続的な成長の基盤作りを行う。

# 2020年3月期度業績予想

(単位：百万円)	2020年3月期 業績予想	利益率	増減率	2019年3月期 実績
売上高	27,000	-	+1.5%	26,590
営業利益	2,200	8.1%	+2.0%	2,157
経常利益	2,250	8.3%	+0.1%	2,248
当期純利益	1,490	5.5%	+1.4%	1,469
EPS(円)	61.85	-	+1.4%	61.02

中期経営計画に基づき、事業の高付加価値化及びシステムインテグレーションモデルの変革に向けた投資施策を推進。  
次世代型 S I 事業は、売上高で前年度から倍増を目指す。



2019年3月期

決算内容

執行役員

経理部長

足立 薫彦

# 目次

- 損益計算書
- 売上高分析
- 営業利益分析
- 貸借対照表
- キャッシュフロー計算書

# 損益計算書

(単位：百万円)	2019年3月期	2018年3月期	増減率
<b>売上高</b>	<b>26,590</b>	23,946	+11.0%
<b>労務費</b>	<b>9,806</b>	9,348	+4.9%
<b>外注費</b>	<b>10,784</b>	9,077	+18.8%
<b>その他経費</b>	<b>787</b>	767	+2.7%
〔仕掛増減高〕	<b>135</b>	-54	+350.0%
<b>売上原価</b>	<b>21,513</b>	19,138	+12.4%
<b>売上総利益</b>	<b>5,076</b>	4,808	+5.6%
<b>販売費及び一般管理費</b>	<b>2,918</b>	2,956	△1.3%
<b>営業利益</b>	<b>2,157</b>	1,851	+16.5%
<b>営業外収支</b>	<b>91</b>	55	+65.5%
<b>経常利益</b>	<b>2,248</b>	1,906	+17.9%
<b>税引前当期利益</b>	<b>2,248</b>	1,906	+17.9%
<b>当期純利益</b>	<b>1,469</b>	1,249	+17.6%
<b>EPS</b>	<b>61.02</b>	51.86	+17.7%

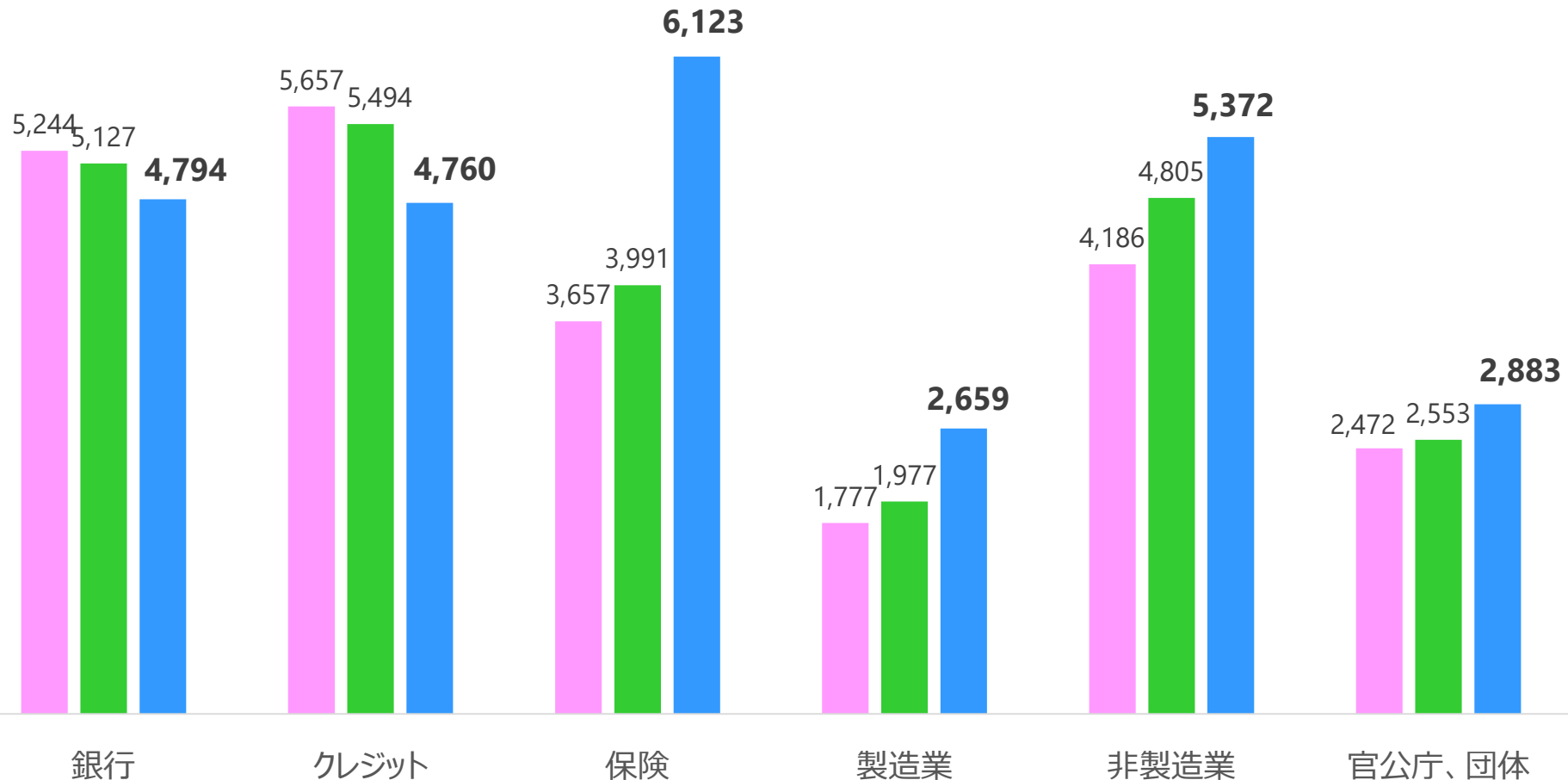
2018年10月1日付けで普通株式 1 株につき 2 株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定して「EPS」を算定しております。

# 顧客業種別売上高概況

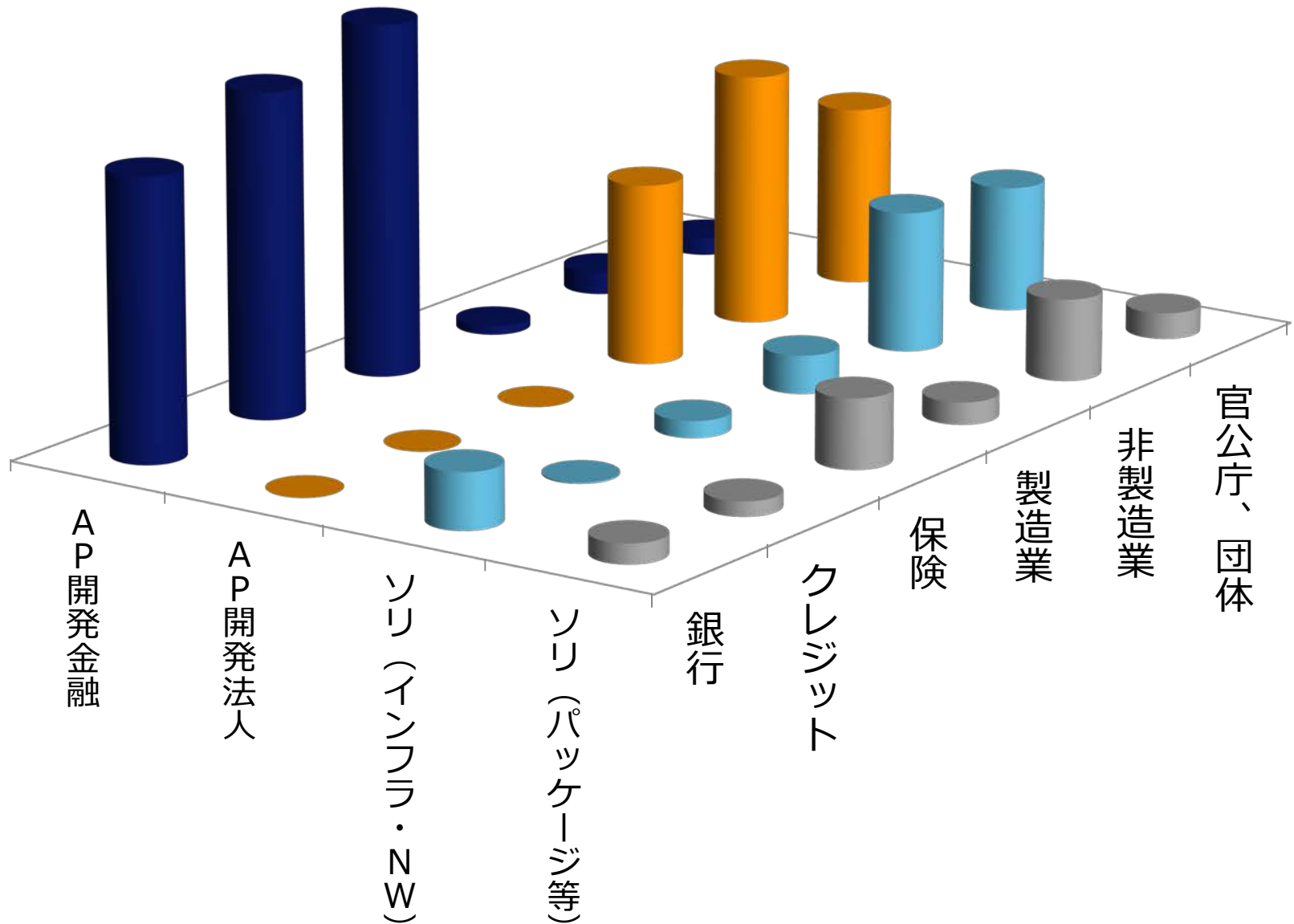
(百万円) 2017年3月期

2018年3月期

2019年3月期

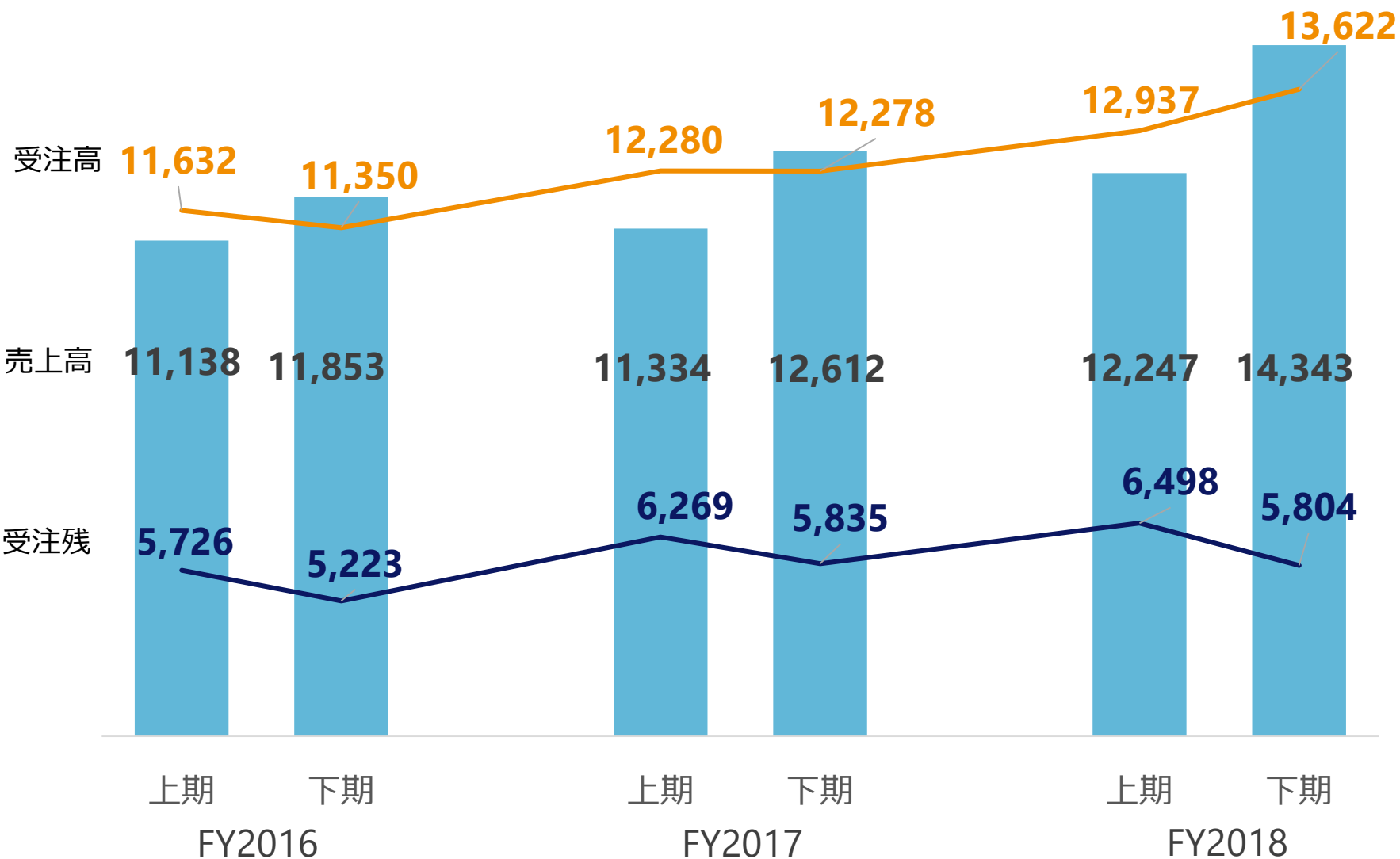


# 顧客業種別売上高概況



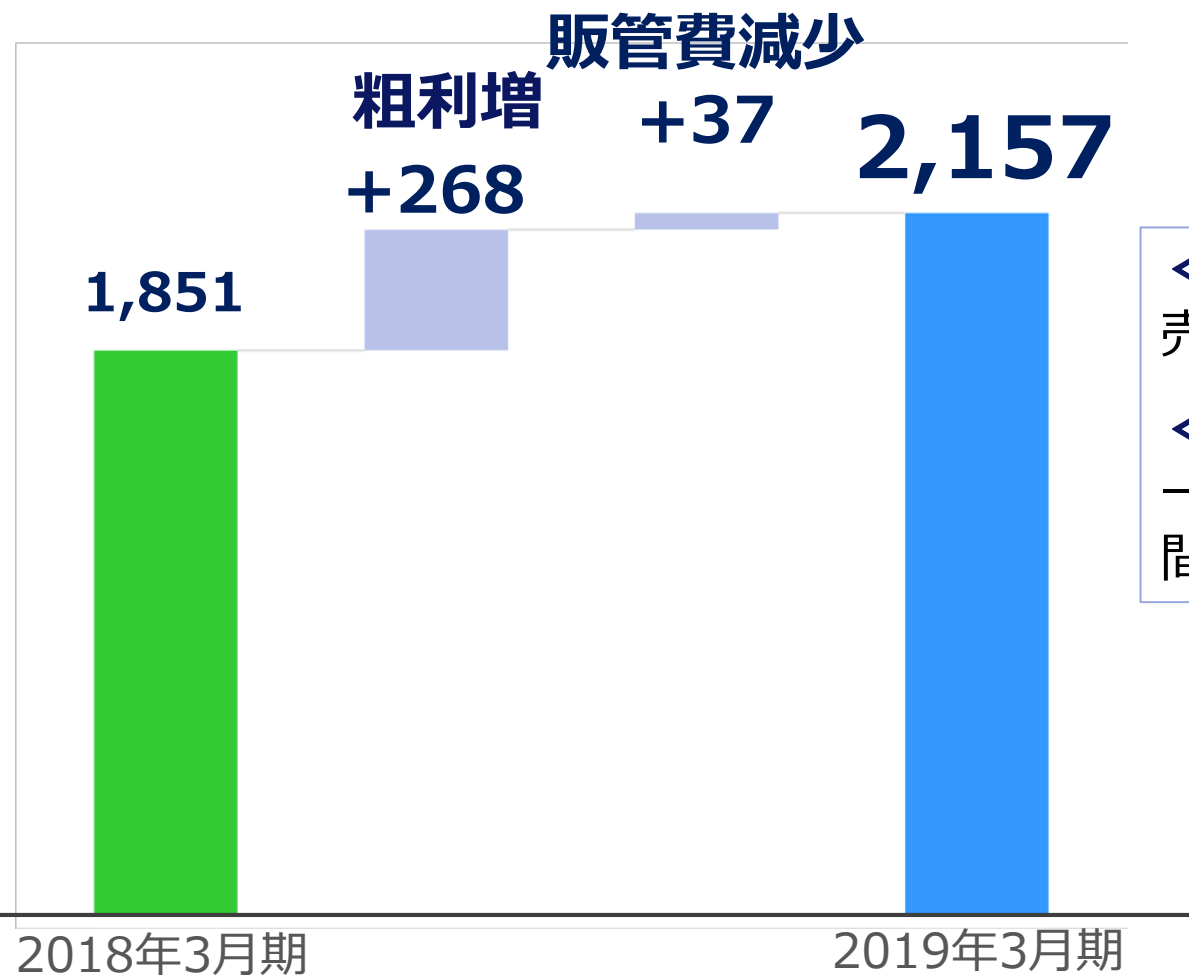
# 受注高・受注残高の状況

(百万円)



# 営業利益分析

(百万円)



## <粗利益>

売上高の増加に伴い増加

## <販売管理費>

一部の資産の減価償却期間の終了等に伴い微減

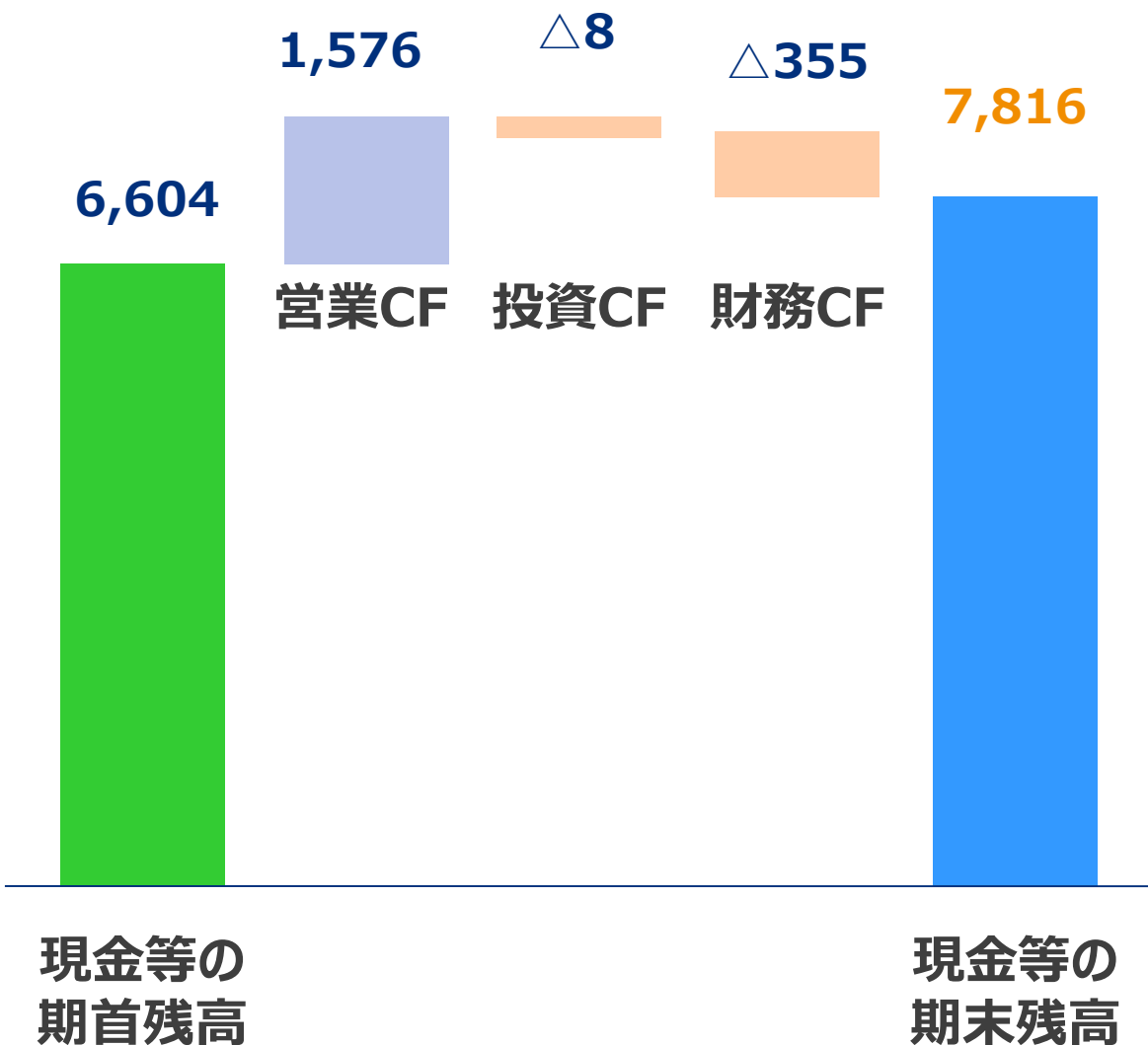
# 貸借対照表

(単位：百万円)	2019年3月期	2018年3月期	増減率
<b>資産合計</b>	<b>16,353</b>	14,800	+10.5%
流動資産	<b>12,930</b>	11,472	+12.7%
固定資産	<b>3,422</b>	3,328	+2.8%
<b>負債合計</b>	<b>4,887</b>	4,454	+9.7%
流動負債	<b>4,717</b>	4,311	+9.4%
固定負債	<b>169</b>	143	+18.2%
<b>純資産合計</b>	<b>11,466</b>	10,346	+10.8%
<b>負債純資産合計</b>	<b>16,353</b>	14,800	+10.5%
<b>自己資本比率</b>	<b>70.1%</b>	69.9%	-
<b>1株当たり純資産</b>	<b>475.93</b>	429.49	+10.8%

2018年10月1日付けで普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定して「1株当たり純資産」を算定しております。



# キャッシュフロー計算書



現金等の期首残高	6,604
税引前利益	2,248
減価償却費	100
売上債権	△353
仕入債務	76
棚卸資産	135
未払金	27
未払費用	△3
その他	19
法人税等	△672
<b>営業CF</b>	<b>1,576</b>
有形固定資産取得	△17
投資事業組合分配収入	30
利息及び配当金	38
その他	△59
<b>投資CF</b>	<b>△8</b>
短期借入金増減	78
配当金支払額	△428
その他	△5
<b>財務CF</b>	<b>△355</b>
現金等の期末残高	7,816

# T D C ソフト株式会社

<https://www.tdc.co.jp/>

※本資料についてのご注意：

本資料に記載されているT D C ソフトグループの将来の予想に関する事項は、現時点における情報に基づき判断したものであり、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により変動することがあります。